

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：32677

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02383

研究課題名(和文)日本の幻想芸術と西欧芸術

研究課題名(英文)Fantastic Japanese Art and Western Art

研究代表者

小山 ブリジット (Koyama-Richard, Brigitte)

武蔵大学・人文学部・教授

研究者番号：40178398

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：2017年度から2019年度まで3年間にわたり「日本の幻想芸術と西洋芸術」について研究した。とりわけ、「日本とヨーロッパの絵画における動物の重要性と描かれた理由」について研究が出来た。このテーマは、新しいテーマで、これまで異文化間の比較という観点からは研究されていなかった。単著を3冊出版し、美術館の図録や美術史雑誌に3回投稿、口頭発表し、海外で招待講演を4回行い、国際的に研究活動を行うことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「日本の幻想芸術と西洋芸術」とりわけ、「日本とヨーロッパの絵画における動物の重要性と描かれた理由」という研究テーマは、日本でもヨーロッパでもこれまで成されたことがない新しいテーマである。その意味で、日本幻想芸術の系譜とオリジナリティーを明らかにし、3冊の著書、4回の招待講演、その他、口頭発表、図録の執筆などを通じて、日本、フランス、アラブ首長国連合などの研究に資すると同時に、成果を広く一般にも紹介することができた。

研究成果の概要(英文)：During the years 2017-2019, my research topic was about "the fantastic Japanese and European art". During this 3 years, I studied about "the reason for which animals are so important in Japanese art". This theme is new and it is the first time that it is studied in comparison with another culture. During this time, I published 3 books and 3 articles for museums exhibitions catalogues and was invited 4 times to give a lecture in foreign countries museums. I had international research activities.

研究分野：比較芸術

キーワード：比較芸術 日本美術 西洋美術 動物画 浮世絵 絵巻物 現代アート 日仏文化

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「日本の幻想芸術と西洋芸術」というテーマを選んだ理由はこのテーマがこれまで全体を俯瞰して研究されることがないからである。数年前から国を超えて幻想芸術に興味を持っていたのだが、異文化間の比較という観点からは研究されていないと分かり、深く研究することを決めた。私の知る限り、これまで絵巻物や浮世絵から現代アートまでについての書籍は存在せず、ヨーロッパと日本の比較の研究もなかったため調べてみることにした。

科研費を頂いた時点ですでに日本の美術における幻想の世界について調べ始めていたが、ヨーロッパの絵画との比較が深く出来ておらず、また現代アートの研究も進んでいなかったため、三年間の研究費をいただいたことにより選んだテーマについて深く研究することが出来た、その結果、今年の秋に出版される本を含めて三冊を執筆することができた。

2. 研究の目的

私の研究目的は、日本文化を西洋の人々に新しい観点から紹介することである。今回のテーマは新しいテーマで、これまで異文化間の比較という観点からは研究されていなかった。幻想芸術というのは幅広い分野であるから、2018年からは主に幻想芸術における動物について調べ、日本の芸術、特に絵画における動物の重要性と描かれた理由を明らかにしながらヨーロッパ芸術と比較した。この二年間の研究の成果は、本年出版される予定の著書（日本の動物画）にまとめられている。外国ではまだ十分紹介されていない日本文化の素晴らしさを新しい面で紹介したつもりで執筆したものである。

3. 研究の方法

この三年間数回フランスに行き、オルセー美術館 Musée d'Orsay、プチ・パレ美術館 Petit Palais、Musée des beaux-arts de la Ville de Paris、ギメ美術館 Musée Guimet、ケ・ブランリ美術館 Musée de Quai Branlyなどで学芸員と研究者に会い、調査を行った。ロンドンのV&A美術館とコペンハーゲン国立美術館のコレクションの調査をした。日本では東京国立博物館、太田美術館、千葉市美術館、箱根の岡田美術館などのコレクションを調査することができた。

4. 研究成果

2017年度から2019年度まで3年間にわたり「日本の幻想芸術と西洋芸術」について研究した。日本とヨーロッパの様々な美術館や図書館、資料室などを訪れ、キュレーターたちと直接会って、一緒に展覧会の図録を準備した。また、現代画家、山口晃氏や鈴木博夫氏などにインタビューすることが出来た。

「日本の幻想芸術と西洋芸術」というテーマは広範に渡るため、最近では、日本の芸術、とりわけ「絵画における動物の重要性と描かれた理由」に焦点を絞り、この観点から日本の芸術とヨーロッパ芸術とを比較する研究を行った。

本科研究費課題の成果発表としては、単著を3冊(Yōkai, Fantastique art japonais, Une souris qui a réussi dans la vie, Le Japon à Paris, Japonais et japonisants de l'ère Meiji aux années 1930)を出版し、美術館の図録や美術史雑誌に3回投稿した(Meiji, Splendeurs du Japon impérial (図録)、他)また、口頭発表に関しても、海外で招待講演を4回行うことができ、国際的に研究活動を展開することができた。各年度の研究活動は以下のとおりである。

(1) 2017年度

2017年度は、日本における資料の調査に加え、フランスを1回訪問した。ルーブル美術館では、ピーテル・ブリューゲル、ヒエロニムス・ボスやダフィット・テニールスの聖アントニウスの誘惑の作品などを見、これらの絵画におけるドラゴンなど架空の動物についての調査を行った。ギメ東洋美術館では、錦絵のコレクションにおける幽霊や擬人化された動物や百鬼夜行関係の作品を調べ、ギメ東洋美術館の図書館にも通った。

日本国内では、主に東京国立博物館、江戸東京博物館、太田記念美術館などを訪問、絵巻物や浮世絵について調査した。この調査を行うことができた結果、2017年に出版された拙著 Yōkai - Fantastique Art japonais (日本語訳は『妖怪、日本の幻想芸術』)の中で、日本の妖怪や擬人化された動物をヨーロッパの幻想的な作品を比較しながら紹介した。

また、日本画の画家、智内兄助氏や東京のミズマアートギャラリーの現代アートの画家である天明屋尚氏、山口晃氏、池田学氏、山本竜基氏へのインタビューも行なった。この五人のアーティスト達は幻想的な作品をたくさん描いており、拙著『妖怪、日本の幻想芸術』において、その作品を分析しながらフランス人読者にはじめて紹介した。

同年にオルセー美術館では印象派とポスト印象派の作品を調査した。学芸員と研究者に会い、2018年に予定されていたナビ派と浮世絵の会議に参加し、図録の準備に入った。ナビ派の画家達が影響を受けた浮世絵の話聞き、意見交換も出来たことで、多くの知見を得ることができた。

(2) 2018年度

2018年度は、2017年度と同様に「日本の幻想芸術と西洋芸術」について、研究を行った。ギメ東洋美術館(パリ)の展覧会「明治 大日本帝国の栄華」Meiji, splendeur du Japon impérial

の図録に参加した。ギメ美術館の館長からの依頼を受けて、「明治時代における妖怪と幽霊」《Yōkai et revenants dans le Japon de Meiji》, Meiji Splendeurs du Japon impérial, という記事を執筆した。

また、2017年からオルセー美術館の学芸員が準備していたナビ派の展覧会がアラブ首長国連邦のルーヴルアブダビ美術館 (Musée du Louvre Abu Dhabi) で行われた。展覧会のテーマは、Affinités japonaises, vers le décor moderne (日本語訳「日本との親近性、近代装飾の始まり」) であった。図録に参加し《Siegfried Bing et les peintres nabis》, ビングとナビ派の画家たち》を執筆した。この展覧会の一環として、マンガのルーツや日本の現代アートに中世の日本のマンガと幻想芸術、西洋芸術が及ぼした影響について講演を行った。講演の内容は、「マンガと日本芸術、西洋芸術」であり、本展覧会の図録に掲載されている。

アラブ首長国連邦に行ったのは初めてだったが、その国の人々が日本の伝統的な美術から現代アート、マンガやアニメについて大変興味を持っていることが分かった。この機会を利用して同館のコレクションの調査も行った。10月には、単著 *Le Japon à Paris, Japonais et japonisants de l'ère Meiji aux années 1930* (日本語訳:『パリの日本 明治時代から1930年代までの日本人と日本愛好家』) を出版した。その著書の内容は、日仏文化交流である。

同年の10月には、パリ・ソルボンヌ大学アジア研究センター (CREOPS) 研究学会の国際大会に参加し、「浮世絵に描かれた凧」(*Le cerf-volant dans les estampes japonaises*) について発表を行った。

(3) 2019年度

2019年度も、2017、2018年度に引き続き「日本の幻想芸術と西洋芸術」についての研究を行った。フランスとデンマークのコペンハーゲンに行き、特に現代アートの美術館(ルイジアナ近代美術館およびデザイン・ミュージアム・デンマーク)のコレクションを調査した。

2019年3月には、パリのケ・ブランリ美術館でコレクションを調査し、同美術館で3月2日、「パリの日本 明治時代から1930年代までの日本人と日本愛好家」(*Le Japon à Paris, Japonais et japonisants de l'ère Meiji aux années 1930* フランス語タイトル) についての講演を行った。

9月7日に、フランス、ルルマラン市で日本美術の展覧会が行われたが、その際に講演を頼まれ依頼され、「日本の絵画における美人画」(*La femme dans la peinture japonaise*) について講演を行った。

同年12月には、東京のミヅマアートギャラリー (Mizuma Art Gallery) で現代アーティスト山口晃氏のインタビューを行った。このインタビューでは主に現在の作品とこれからの作品について伺ったが、詳しい内容は今年フランスのスリーズ出版社で出版される予定である画集『山口晃』に掲載される。

また、2020年3月には、スイス、ジュネーブバウアー財団東洋美術館で「日仏文化交流、日本美術とヨーロッパ美術」(*Regards croisés, Artistes japonais et japonisants des années 1860 à 1930*) について招待講演を行う予定だったが、新型コロナウイルスの流行のため、延期となった。

2020年の10月にこの三年間研究させて頂いたテーマ『日本の動物画』についての著書が出版される予定である。インドや中国の影響を受けた日本美術がどのようにして動物を表現したかを時間軸に沿って分析した。内容は次のとおりである: シンボルとしての動物たち、仏教における動物、擬人化される動物、絵巻物における動物、擬人化された動物の話、現代アートの画家たちと動物の描き方と意味である。章ごとに、ヨーロッパの動物の描き方との比較についてまとめた。

『日本の動物画』(*Les animaux dans la peinture japonaise*, Nouvelles Editions Scala, 全320ページ) の原稿を完成し、2020年10月出版することができるのは、2017年から2020年3月までの3年間に科学研究費をいただくことができたためである。—日本とヨーロッパの美術館、資料館や図書館で調査を行うことができ、日本の絵画における動物の描き方、またはその存在の重要性を明確に証明することができた。

また、この三年間、数回パリのチェルヌスキ美術館に行き、学芸員と浮世絵のコレクションを調査した。本年10月からチェルヌスキ美術館では浮世絵の展覧会を行う予定であり、図録のための論文を執筆した。

この三年間に頂いた予算のおかげで、日本とヨーロッパに加え、アラブ首長国連邦のルーヴルアブダビ美術館で研究と調査を行うことが出来、研究書も数十冊購入し、新しい研究テーマにも繋がった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Brigitte Koyama-Richard	4. 巻 -
2. 論文標題 Yokai et revenants dans le Japon de Meiji	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Meiji, splendeurs du Japon imperial 1868-1912	6. 最初と最後の頁 134-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Brigitte Koyama-Richard	4. 巻 -
2. 論文標題 Le retour des yokai et autres demons	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Beaux-Arts	6. 最初と最後の頁 35-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Brigitte Koyama-Richard	4. 巻 -
2. 論文標題 Siegfried Bing et les peintres Nabis entre japonisme et Art Nouveau	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Affinites japonaises, vers le decor moderne図録	6. 最初と最後の頁 56-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Brigitte Koyama-Richard	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Nouvelles Editions Scala	5. 総ページ数 176
3. 書名 Le Japon a Paris, Japonais et Japonisants de l'ere Meiji aux annees 1930	

1. 著者名 Brigitte Koyama-Richard	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Nouvelles Editions Scala	5. 総ページ数 48
3. 書名 Histoire d'une souris qui a reussi dans la vie, un conte japonais	

1. 著者名 Brigitte Koyama-Richard	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Nouvelles editions Scala	5. 総ページ数 250
3. 書名 Yokai fantastique art japonais	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----